

守ろうよ 未来を見つめる 小さなひとみ



オレンジリボン、ご存じですか？

「オレンジリボン」は、子ども虐待の現状を広く知らせ、虐待を防止するとともに、虐待を受けた子どもが幸せになれるように、という思いが込められた子ども虐待防止のシンボルマークです。平成16年9月、栃木県小山市で幼い兄弟が虐待の末、橋の上から川に投げ入れられて亡くなるという痛ましい事件をきっかけに、小山市の市民団体が、子ども虐待防止を目指して、平成17年からこのリボンを広めるキャンペーンを始めました。現在では、「NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク」を主体として、全国にこの活動が広がっています。

子どもの虐待 私たちの周りにも

平成20年度の田原市における児童相談（児童に関する様々な問題についての相談）は138件で、そのうち児童虐待に関する新規の相談・通告件数は計12件20人でした。内訳は、「身体的虐待」が1件1人、「心理的虐待」が2件4人、「ネグレクト（養育拒否・放置）」が1件4人、その他8件11人となっています。

近年は、毎年10件以上の相談・通告があります。身近な地域でも児童虐待が起きている現実を、私たちは重く受け止めなければなりません。

深い心の傷 長い時間をかけて

虐待を受けた子どもたちは、本来なら愛情を注いでくれるはずの親から逆に苦痛を与えられてしまったため、「生まれてこなければよかった」「誰にも愛されない」「居場所がない」というように、自分を否定してしまいます。こうした子どもたちは、大人になっていく過程に応じて、長い時間をかけて支援していく必要があります。そのためには、心を開き、

信頼することのできる大人の存在が欠かせません。それには、まず私たちが関心を持ち、児童虐待について理解することが求められます。

身近な虐待に関心を オレンジリボンキャンペーン

田原市民生児童委員協議会では、11月15日（日）午前10時から田原文化会館および体育館で開催される「福祉のつどい」において、オレンジリボンキャンペーンを実施します。子どもたちが地域の中ですくすくと健康に成長できることを願い、同協議会の主任児童委員を含む児童部会が主体となって、手作りのオレンジリボンを作成しました。心のこもったリボンを当日会場にて配布しますので、ぜひお立ち寄りください。



▲オレンジリボンを作る田原市民生児童委員協議会児童部会の皆さん